

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 ふきのとう	代表者	新庄 祐士	法人・事業所の 特徴	小規模多機能型施設としての柔軟な対応を心がけ、ご利用者それぞれの暮らしを支援することに努めます。また、ぬくもりと笑顔あふれる施設づくりを方針にサービスを提供しています。
事業所名	中筋 小規模多機能型居宅介護施設 丹都	管理者	野々垣 達哉		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	3人	1人	1人	1人	0人	1人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組・結果	意見	今回の改善計画
A.事業所自己評価の確認	毎月の会議にて改善計画の進捗状況の確認と評価を行い実践へと繋げる。その中で自己評価項目の理解度を高める。	改善計画については比較的取り組み成果があった。また、職員理解も向上し評価の差が少なくなった。しかし、実践できなかった部分や、理解度の向上が必要な面もある。	評価と改善に向けた取り組みが実践できており、ご利用者の楽しさを作れている。ご利用者の生活状況を把握し、さらに踏み込んだ支援へと繋げる仕組みができていますので、実践に繋げてもらいたい。	毎月の会議にて改善計画の進捗状況の確認と評価を行い実践へと繋げる。各職員の運営に関する情報共有を図り、自己評価スキルを高める。
B.事業所のしつらえ・環境	ご利用者や来客者、職員にとって快適かつクリーンな環境を整備し、居心地の良い空間を提供する。	コロナ禍ということもあり、環境面の清掃や換気、テーブル配置等を強化し、より安心安全な環境作りができた。	整理整頓や清掃が出来ており、清潔かつ施設特有の臭いもない。感染対策もできており、ご利用者にとって心地よい安全な空間です。	ご利用者や来客者、職員にとって快適かつクリーンな環境を整備し、居心地の良い空間を提供する。
C.事業所と地域のかかわり	地域・家族広報・SNSを通じて事業所のPRを行う。また、職員の接遇(挨拶・電話対応等)の研修を行いスキルアップを図る。	日々の様子を地域や家族広報、SNSで配信することで、利用や職員採用につながるケースがあった。接遇の研修も実施しているが、引き続きスキルアップは必要。	皆さん気持ちのよい挨拶ができており、親切で優しく好感が持てる。感染状況により地域参加は難しいところがあったと考える。	地域・家族広報・SNSを通じて事業所のPRを行う。また、接遇研修(挨拶・電話対応等)を実施する。
D.地域に出向いて本人の暮らしを支える取組	ご家族や地域の関連する方々(民生委員等)との繋がりを強化し、在宅支援を進める。また、地域行事への参加機会を提供する。	地域との繋がりを強化するには至らなかったが、地域の感染状況により地域行事等への参加機会をもてた。	感染状況により難しい面があったと思うが、リモートを活用した小学校や幼稚園との交流は今後も継続してやってもらいたい。	ご利用者が住み慣れた地域生活を継続できるよう、生活状況を把握し、各関係機関や家族との関係性を強化し、在宅支援へと繋げる。
E.運営推進会議を活かした取組	サービス状況や運営状況の詳細をより詳しく報告する。また、丹都での困難事例や、地域での事例を報告相談出来る場として活用する。	サービス状況や日々の様子、施設内研修の資料等を添付し、より運営と活動の詳細を報告することができた。困難事例等については、相談案件もなく活用することはできなかった。	わかりやすい運営報告で、意見を求めて改善に繋げようとする姿勢を感じる。地域での心配なケースがあれば、委員会や包括とも連携し一緒に考えられたらと思う。	サービス状況や運営状況をより詳しく報告する。また、丹都での困難事例や、地域での事例を報告相談できるケースについては委員会の場で協議する。
F.事業所の防災・災害対策	様々な状況を想定した訓練を実施し、運営推進委員の方々に防災訓練への参加機会を設ける。	防災訓練、水難訓練等実施することができたが、感染拡大に伴い予定にしていた訓練への参加はできなかった。	感染状況により避難訓練への参加ができなかったが、次回は参加できればと思う。災害時に一時避難場所としての受け入れ機能は地域にとって大きな存在である。	様々な状況を想定した訓練を実施し、運営推進委員の方々に防災訓練への参加機会を設ける。